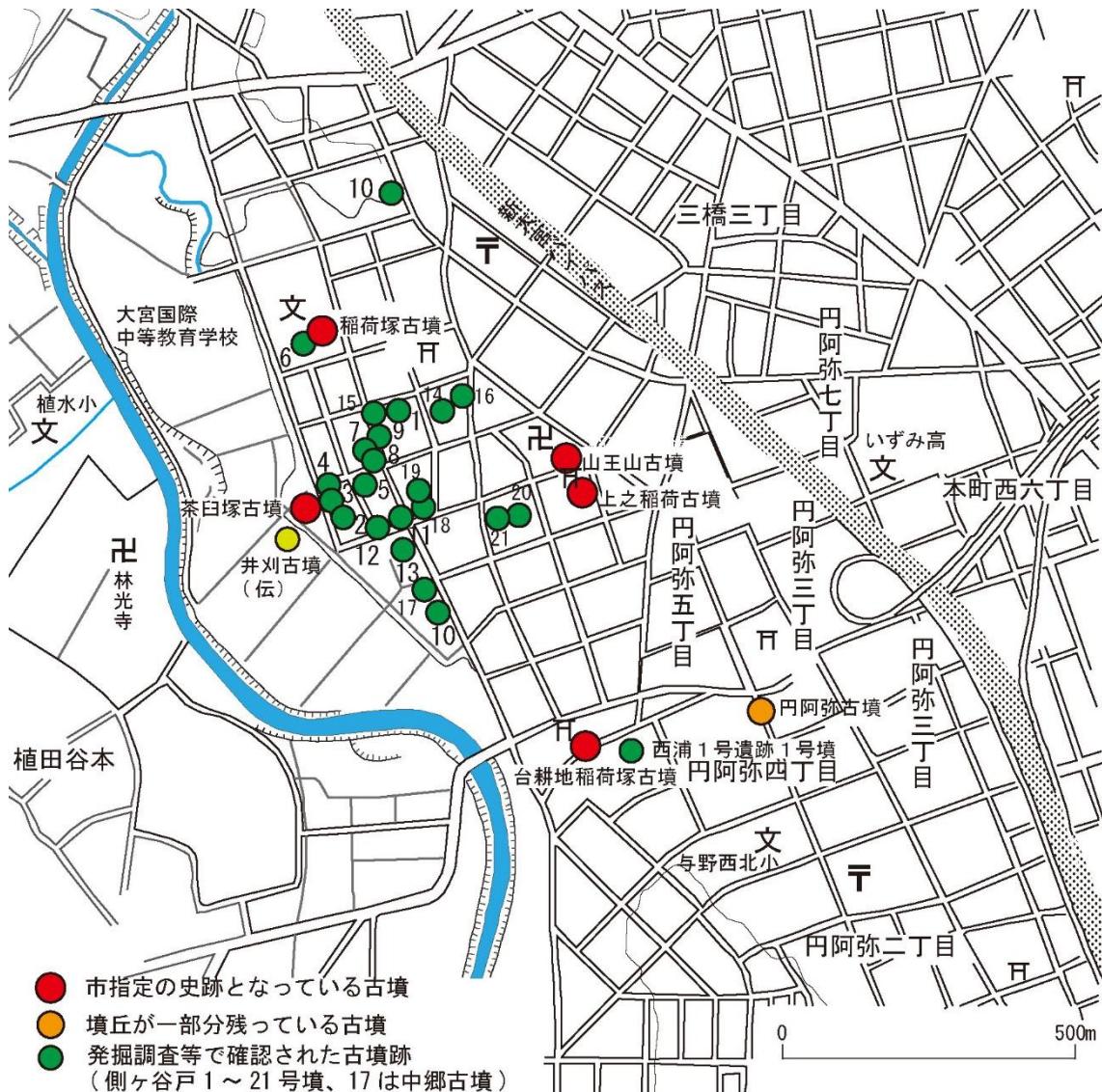


さいたま市の古墳探索

第2回 側ヶ谷戸古墳群

大宮区三橋から中央区円阿弥にかけて所在し、大宮台地西端に沿って南下する鴨川に面する。この付近も現在では住宅地化が進み、景観の変貌が著しい。



側ヶ谷戸古墳群 古墳の位置

開発に先立つ発掘調査では、過去の開発で墳丘が破壊されていた台地上の平地から円墳跡が多数確認された。側ヶ谷戸 1~21 号墳と称され遺構で、この地域には 6 世紀から 7 世紀前半にかけての古墳が相当数存在していたことが明らかにされつつある。2001（平成 13）年に発掘調査された 11 号墳の周溝からは馬形埴輪 1 体、男女の人物埴輪各 1 体、円筒埴輪 7 本を含む多数の埴輪が出土した。この埴輪群は、さいたま市指定文化財に指定されている。また、西浦 1 号遺跡 1 号墳は終末期の方墳跡であった。

その一方で、市史跡として指定された古墳は墳丘や遺構が現存しており、稲荷塚古墳・茶臼塚古墳・



馬



男子



女子



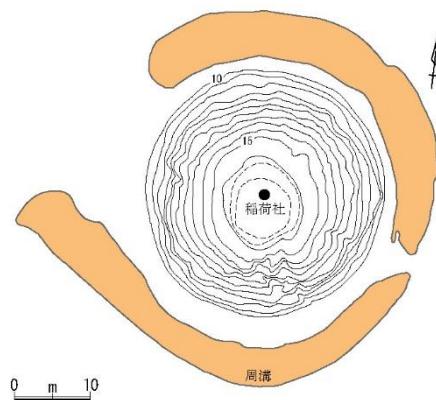
円筒埴輪

側ヶ谷戸 11号墳 墓輪 さいたま市指定文化財

台耕地稻荷塚古墳・上稻荷古墳・山王山古墳の順に半日コースで探索することができる。出発点は大宮駅西口 西武バス1番乗り場から乗車し、大宮国際中等教育学校で下車（1番乗り場からの路線バスはすべて大宮国際中等教育学校を通過する）。皮切りは、稻荷塚古墳である。

稻荷塚古墳 稲荷塚古墳は同学校敷地内にあるので、正門を入ったら事務所に一言断ってから見学すること。側ヶ谷戸古墳群の中でも墳丘を残す最も大きい円墳とされており、高さ 5.92m のマウンドは樹木の林立と相まって眼前に迫ってくる。

同古墳は、昭和 20 年代の小規模調査で周堀が馬蹄形をなすことが明らかにされており小さな前方部を有する帆立貝型前方後円墳である可能性も推定されている。前身の大宮西高校時代の 1981～1982 (昭和 56～57) 年に周溝調査が行われ、100 本以上の円筒埴輪や碧玉製勾玉などが出土し、6 世紀第 3 四半期に位置づけられることが確認された (大宮市教育委員会 1987)。



稻荷塚古墳測量図



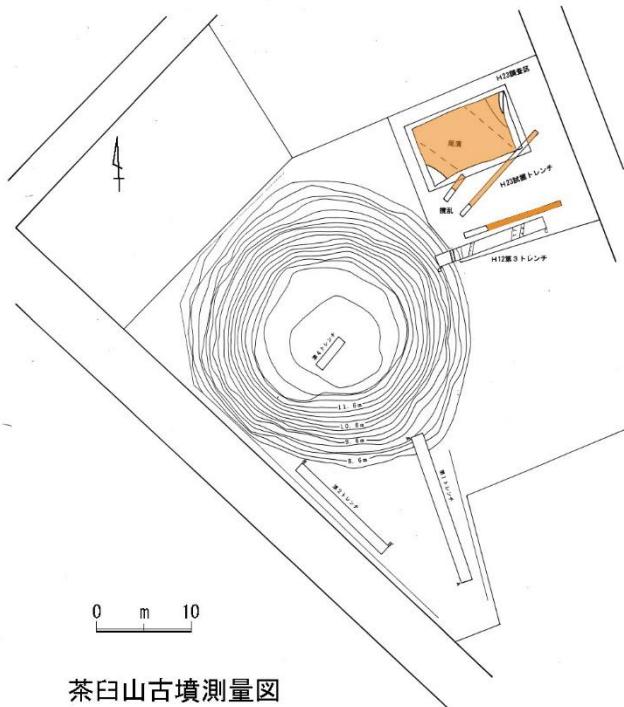
稻荷塚古墳 左：西側グランド方向から



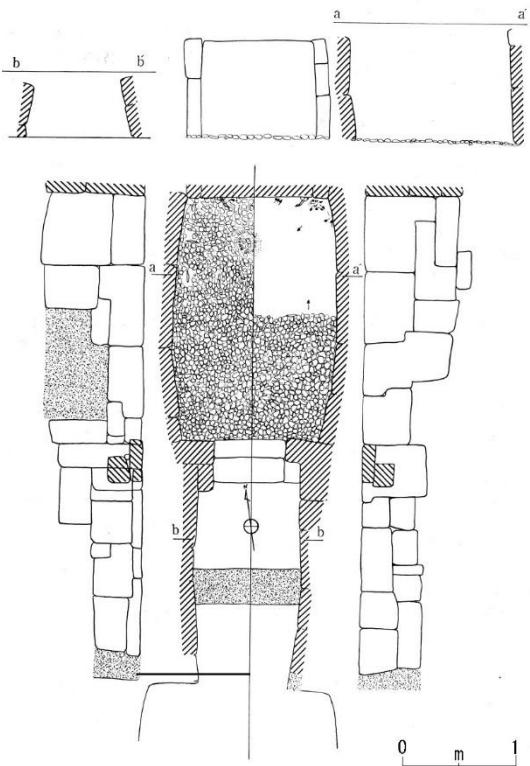
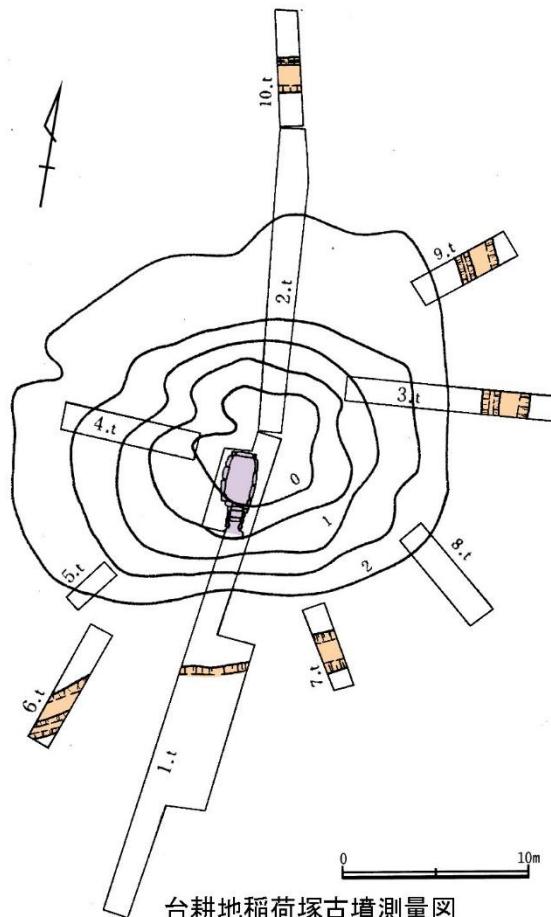
右：南東方向から

茶臼塚古墳 学校正門を出て南西方向に400mほど行った台地西縁に、草が刈り取られ墳頂に数本の樹木を残す茶臼塚古墳が見えてくる。鴨川（原利根川）に沿った眼前の低地には、水田が広がる。2000（平成12）年、大宮市教育委員会実施の周溝確認調査では6世紀後半の埴輪片や石室に使用されたと考えられる緑泥石片岩が出土したが、南側の2本のトレンチでは周溝が確認できなかった（大宮市教育委員会2001）。さいたま市教育委員会による2011（平成23）年の個人宅地造成に伴う墳丘北東の発掘調査では、幅約10mの周溝が検出され同時期の埴輪片が多数出土した（さいたま市教育委員会2011）。

『埼玉懸史』（埼玉縣1951）には「側谷戸にて字井刈耕地に高さ七米（二十尺）の前方後円墳と小古墳を存し」とあり、1957（昭和32）年に土取作業により消滅した井刈古墳が前方後円墳であったとされている。この地の鴨川は西南側に突出して蛇行しており、かつて舌状台地が存在していたことを彷彿とさせる。あるいは隣接する茶臼塚も前方部が失われた前方後円墳であった可能性もある。広大な水田地帯とともに、後世に残したい歴史的景観である。



台耕地稻荷古墳 台地西縁に沿って500mほど行くと台耕地稻荷古墳の擬木で囲われた林地が見えてくる。墳形は崩れていますが、頂部には赤い稻荷社が建っています。現状の墳丘は東西約24m、墳丘高約1mの円墳。1965（昭和40）年、大宮市教育委員会の発掘調査で凝灰質砂岩の切石切組積で構築された横穴式石室から大刀・鉄鎌・刀子・切子玉・ガラス製小玉・土製漆塗小玉などの副葬品が検出された（大宮市教育委員会1973）。周溝は西側が未掘で不明だが、一周しない馬蹄形と考えられている。時期的には7世紀前半の終末期古墳と見られる。



台耕地稻荷塚古墳 墓頂の稻荷社



台耕地稻荷塚古墳 南西方向から

上之稻荷古墳 台耕地稻荷塚古墳からは迂回して北方へ 500m ほど戻り、かみのいなりこふん 上之稻荷古墳を目指す。

周囲はすっかり住宅地化し分かりづらい路地奥に、同古墳はある。高さ 1.8m 程の墳頂に、稻荷社が祀られている。調査歴はないが、採集された埴輪片から 6 世紀後半代の古墳とみられている。



上之稻荷古墳 南方から

山王山古墳 上之稻荷古墳から北上すると、道路を挟んで慈寶院が見えてくる。慈寶院は慈叡山寂光寺と号する天台宗の古刹で、その墓地内的一角に山王山古墳が存する。現状は、墳丘はなく石室石材が露出した状態になっている。記録によると、1934(昭和 9)年に墓地造成の際に内務省嘱託であった考古学者の柴田常恵の指導で発掘調査が行われ、石室内から勾玉・ガラス玉・鉄鏃などの副葬品が出土したという（塩野 2004）。7世紀前半代の終末期古墳とみられる。

ここから出発点の大宮国際中等学校のバス停に戻り、大宮駅西口行きのバスに乗って帰路につく。



山王山古墳 慈寶院墓地内



山王山古墳 石室石材が露呈している。

《参考・引用文献》

- 大宮市教育委員会編 1973 「台耕地稻荷塚古墳発掘調査報告書」『大宮市文化財調査報告』第 6 集
大宮市教育委員会編 1987 「稻荷塚古墳周溝確認調査報告」『大宮市文化財調査報告』第 23 集
大宮市教育委員会編 2001 「茶臼塚古墳範囲確認調査」『大宮市文化財調査報告』第 50 集
埼玉県 1951 『埼玉懸史』第 1 卷 先史原史時代
さいたま市教育委員会編 2018 「第 4 部 茶臼塚古墳（第 1 次調査）」『さいたま市内遺跡発掘調査報告書』第 17 集
さいたま市立博物館 2018 『さいたまの古墳』第 32 回特別展図録
埼玉大学考古学研究会 1967 「荒川下流域における考古学的調査」『鳳翔』第 3 号
塩野博 2004 『埼玉の古墳 北足立・入間』 さきたま出版会